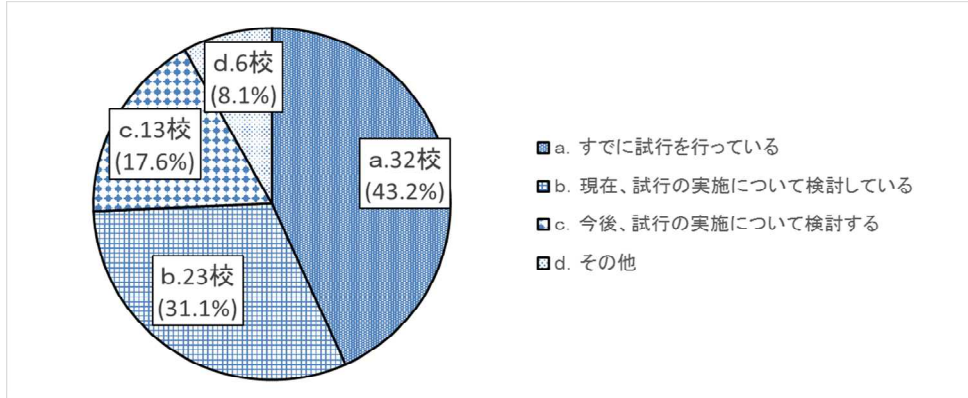


新たな実務実習を想定した試行（トライアル）の状況について (各大学への調査結果より)

1. 集計結果（回答数：73大学74学部）



2. 具体的な検討状況（自由記述）

北海道地区	
(b)	システム等は調整機構での進行状況によるが、本学独自で対応するものについては、30年度の施行を予定して準備を進めている。
(b)	新たな共用試験を想定した実習内容は、今年度から試行予定。実習の評価、大学と実習施設との連携等の試行は北海道地区調整機構で検討中。
(b)	地区調整機構において、8疾患を満たす施設マッチングのシミュレーションを行い、連携した実習の試行を検討している。
東北地区	
(a)	現行のSBOs 5段階評価では、施設間に差異があり、態度等の評価が見えにくいところがあるため、別途総括評価を実習終了後に収集している。
(a)	①東北6県の県薬、県病薬と共同で調整機構を主体としてトライアルを試行している。 ②上記の他に大学、福島県薬、福島県病薬が協働してトライアルを試行している。
(b)	試行に関しては、東北地区調整機構を介しての実施を検討している。
(b)	日本薬剤師会が実施している薬局実習のトライアル実習を一部の学生に実施している。
(b)	東北調整機構、県薬剤師会および県病院薬剤師会でトライアルを行っており、その結果により検討する。
(d)	東北地区調整機構において薬剤師会、病院薬剤師会及び大学の連携について検討している。
関東地区	
(a)	平成28年度に、Ⅱ期薬局、Ⅲ期病院実習の一部の学生と実習施設を対象に、実習内容は従来通りとしつつも、連携ツールと評価方法の試行を行った。結果としては、薬学教育協議会で例示された連携ツールだけでは適切な試行ができず、本学独自の運用マニュアルを作成して対応した。試行の結果は、関東地区調整機構に報告した。平成29年度もⅡ期、Ⅲ期で試行を行う予定である。
(a)	埼玉県薬剤師会ではいくつかの薬局にてトライアルを始めている。その薬局で実習した学生は新コアカリを試行した、また、施行中である。
(a)	一部の実務実習施設に新コアカリSBOsを対象に本学WG作成の「パフォーマンスレベルによる評価」に係るトライアルを依頼し、実施している。実施件数は、2016年度が4学生の実習（3薬局施設、3病院施設）で、2017年度が9学生の実習（9薬局施設、3病院施設）である。当該トライアルにおいて教員は学生担当として機能し、先の実習先での実習状況を後の実習先に伝達する等の役割を担う。
(a)	東京都薬剤師会と連携し、すでに薬局実習において、平成27年度から年間数名、トライアル実習を行っている。
(a)	事前学習においては、フィジカルアセスメントや、抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技に関する実習は従来から実施している。実務実習では、改定コアカリで求められている実習の振り返りは、現在の実務実習進捗ネットワークツールの週報とほぼ同じと見なされる。
(a)	今年度の実務実習（一部の学生のみ）で薬局⇒病院の順で実習を設定し、薬局実習前に薬局と病院の実習内容とスケジュール案を各々入手し、薬局・病院・学生・大学教員4者での情報共有を図った。また、実務実習管理システムでは病院の指導薬剤師が薬局実習における実習内容、薬局の指導薬剤師が病院実習での指導内容を確認できるようにし、学生の成長度を各指導薬剤師が確認できるようにした。これらによって連携の問題を把握するよう努めている。
(a)	一部の薬局実習でトライアルを実施している。附属病院で、本年度Ⅱ期実習で、一部トライアルを実施予定である。

(a)	<p>・医療薬学・社会連携センターが中心となり、実習開始前に本学附属病院で実習を行う学生の薬局実習施設に対し、主要8疾患関連に関連した服薬指導実習の実施可否を調査し、大学-薬局-附属病院の情報共有により、8疾患を漏れなく実習するためのトライアルをH29年度1期より行っている（これは、H28年度に実施した大学-附属病院-附属薬局間のトライアルを実習先薬局へ拡大したものである）。</p> <p>・8疾患の服薬指導実施状況および実習内容の理解度に関連したレポートを学生に毎週提出させ、附属病院-薬局の指導薬剤師間の情報共有ツールとしての有用性トライアルをH28年度に引き続き、規模を拡大して実施している（H28年度は附属病院-附属薬局間で実施した）。</p>
(a)	病院クリニカルクラークシップ、薬局クリニカルクラークシップを実施ならびにトライアル中である。
(a)	薬局、病院の連携については現行の全ての実習で新たな方法を試行している。評価については、日薬のトライアルに協力している。
(a)	新しい実務実習を効率よく効果的に実施するには、薬局-病院の連携が重要であり、初めての連携でも無理なく実施するのに、薬局でのWeb週報を大学経由で病院へ送るトライアルを実施している。また、病院実務実習において、代表的疾患について病棟薬剤師の業務を遂行できる能力を身に付けることを目指して、8週間の病棟業務用のルーブリック評価表を作成してトライアルを実施している。（どちらも1例）
(a)	平成29年度実務実習において、本学仕様のルーブリック評価表を用いた評価トライアルを実施中である。また、平成30年度実務実習で、病院実習におけるグループ化のトライアル実施を検討中である。
(b)	フィジカルアセスメント、薬物治療（代表的な8疾患症例検討）、在宅医療に関する講義は行っており、更に充実させていく予定である。事前実習に関してはルーブリック評価を用いている。実務実習の評価に関しては、トライアル実習に参加し、評価の検討を行っている。
(b)	関東地区調整機構大学小委員会で実習の評価について検討を行っている。
(b)	平成30年度は、A組：薬局⇒病院、B組：薬局⇒病院、C組：病院⇒薬局での実務実習を予定しており、実習内容については可能な限り改訂モデルカリキュラムに準じて実施するよう施設に依頼する予定である。また、薬局から病院への直前の申し送りに関して、担当教員によるトライアルを行う予定である。実習の評価については、平成30年度トライアルに向けて検討中である。
(c)	今年度中に検討する予定である。
(c)	基準となる評価指標の作成や、連携体制の整備が実施され次第、学生を選定し、トライアルを実施する。トライアル実施実習施設については選定済み。
(c)	実習日誌を病院、薬局がお互いに関覧できるように、ウェブ記載の日誌をプリントアウトして次の施設に閲覧してもらうことを考えている。実習で重点的に行った内容や8疾患の患者に関する情報もチェックシートを用いて次の施設が把握できるように実習日誌の最初のページにファイルすることを考えている。
(c)	インターネットを介した実務実習指導管理システムを用いた方法を検討する予定である。
(c)	学生の能力や学習状況に応じた、参加型実習の組み立てについて検討予定である。
(d)	地区調整機構で検討されている結果を踏まえて、検討を加え、平成30年初にプランを提示し試行する。 代表的8疾患の履修については、病院・薬局において現状で実習可能であることを平成28年度の試行により確認している。
東海地区	
(a)	本学の附属薬局において、調整機構より依頼のあったトライアル実習を実施した。また、WEBシステムで実施する振り返り報告書の運用を試行した。
(b)	ゼロックスシステムを利用した試行を検討している。
(b)	昨年度に続き、現行の3期の実習期において、原則1期2期、2期3期の連期で実習を実施している。その際、初めの実習で学生が体験した代表的疾患についてアンケートによる確認を行っている。また、地区調整機構を通じ、今年度第1期に、7名が愛知県及び三重県内で薬局実習のトライアル評価に取り組んでおり、2期以降も実施予定。
(c)	日本薬剤師会主導による薬局実務実習のトライアルには参加している。来年度のトライアルについて今後検討を進める予定。
(c)	東海地区調整機構が中心となり、全ての項目についてトライアルを検討中。
(c)	29年度後期より地区調整機構にて検討予定
北陸地区	
(b)	病院実習は29年度は、少数の病院にて試行をしており、次年度は多くの病院で実施したい。薬局実習は次年度、実施する予定。
(b)	一部の施行を、本年度第2期を目処に実施するための検討を行っている。本学は従来、主に急性期患者を対象とした大学附属病院のみで病院実習を行っているため、更に、中小病院における地域連携も実習に取り入れるための施行を検討している。
(c)	日本薬剤師会の改訂コアカリにおける評価の手引きに基づくトライアルは実施中であるが、大学作成の評価方法を基としたトライアルは、30年度に実施予定であり、現在北陸三県の薬剤師会及び病院薬剤師会のメンバーと共に改訂コアカリにおける評価検討会にて評価、課題を協議する予定である。

近畿地区	
(a)	課題解決型高度医療人材養成プログラムにおいて、新たな実習の在り方に関する検討、それを想定した試行的な実施を一部の実習施設との連携のもと行っている。こういった検討は、全国、近畿地区で十分行われているとは言い難く、今後強く推進する必要がある。
(a)	フィジカルアセスメント教育を1年次から取り入れる。また、大阪大学が主催する改定コアカリに基づく実務実習のトライアルに参加している。
(a)	近畿地区調整機構が指定した施設でトライアルを実施し、そこに参加している。
(a)	八尾市立病院、堺総合医療センター、東大阪市立総合病院を中心とした精神科領域専門病院、地域医療連携診療所などの連携実習を地域の薬剤師会に協力を得、実施しており、大阪大学との共同で文部科学省委託事業として日本薬学会第137年会で発表している。
(a)	近畿地区調整機構および一部の地域の薬剤師会を通して、薬局-病院と連続性のある実習に対する試行を行い参加している。また現行の実習において指導薬剤師が学生を評価する際、実習のパフォーマンスをルーブリック等で評価する方略について説明会が行われ、実施している。
(a)	兵庫県では、①平成28年度に、病院-薬局の連携（8疾患の評価）について限定された施設（病院は6施設）で実施し、平成29年度も実施予定である。②兵庫県薬剤師会では、平成28年度に播磨地区及び川西市の薬局において、日薬の作成したOBEの考え方に基づく実務実習の評価に基づきトライアル評価を実施した。平成29年度第2期より、施設数を大幅拡大して実施する予定である。
(a)	薬剤師会、病院薬剤師会の施行への協力要請があれば、積極的に協力しており、今後もその予定である。既に兵庫県下では病院と薬局の連携を含めたトライアルがごく少数の学生を対象に実施されており、これらの経過・成果などについて、実施主体である薬剤師会からの報告を待っている状況である。
(a)	兵庫県下の5大学の取り組みとして、昨年度より薬局実習、病院実習の順に実習を行う学生を数名選び、トライアルを開始した。現行の実習を行った上で改訂コアカリに基づく評価の試行を行い、またその評価を薬局から病院に連携して引き継いでいくことを試みた。本年度はそれを受けて改善したトライアルを継続して行く予定である。
(a)	兵庫県薬剤師会が主導で、現カリキュラム下における28年度実習の1期病院、2期薬局の実習で、8疾患についての学習がどの程度できているかについて少人数学生でトライアルを実施し、病院・薬局・大学間の連携の課題などを抽出した。平成29年度も同様な検討が実施される予定である。
(b)	平成30年度の実務実習で、薬局：病院の連携ツール、評価方法についてのトライアルが実施できるように準備を進めている。
(b)	近畿地区調整機構において、議論がなされており、既に一部で試行は行っている。また、地域薬剤師会においても同様の試行を開始している。
(c)	近畿地区調整機構が各府県で一部で行っている実務実習試行結果を基に、平成29年度及び30年度前期で、本学近隣の地区で試行を行うことを検討している。なお、一部の学生は27年度と28年度は大阪大学薬学部が指定病院とその地区の薬局で行っている試行に参加しており、問題点の把握に努めている。
(c)	現在、病院・薬局のグループ化を検討しており、平成29年度秋季頃を目途にグループの確定を目指している。グループが確定次第、現行の枠組みの中でグループ内の薬局・病院に学生を割り振りトライアルを実施する。実務実習の評価は、日本病院薬剤師会が公表している「病院実務実習評価原案_H29 日病薬版」の使用を検討している。
(d)	薬局実習について、2.5か月を半分に分け、調剤中心の薬局と在宅医療・セルフメディケーションに力を入れている薬局の両方で実習を行うことで、均質かつ充実した薬局実習を目指したトライアルを平成28年度第2期に4名の学生を対象に行った。 本年度は、近畿地区調整機構を中心に病院-薬局のグループ化を進めている。
中国・四国地区	
(a)	実習施設間での連携に関して本年度薬局から始まる実習生に、8疾患経験症例の病院への情報提供ツールのトライアルを実施中である。なお、岡山県では、県薬剤師会、県病院薬剤師会とのカリキュラム検討会議が定期的に実施されており、今年度も大学教員を交えた形で引き続き協議が行われている。
(a)	地区調整機構、広島県薬剤師会、広島県病院薬剤師会、広島県内薬系大学が連携し、モデル地区を設定してトライアルを実施し、課題の洗い出しと対応策の検討を進めている。
(a)	今年度1期、2期連続で実習予定の一部の学生に代表的な疾患の症例経験リストや実習体験リストを作成・配布し、実習内容の把握を行っている。今後、本データを参考にして岡山県病院薬剤師会、岡山県薬剤師会と連携して実習施設の選定、実習内容の分担案作成を行う予定である。
(a)	日本薬剤師会の概略評価トライアルを実施した。日本病院薬剤師会の概略評価トライアルを実施中である。日誌案、薬局・病院連携ツール、レポート案の使用もトライアルしている。
(a)	地区調整機構等を中心に平成28年Ⅱ期より県下の薬局で実施した。また平成29年Ⅰ期より県下の病院で実施した。

(a)	WEBシステムを昨年度から全稼働している。学生や施設への連絡及び施設からの連絡（双方向）、学生の実習記録（日誌）、学生自身・指導薬剤師の評価等を大学教員が常時確認することができることで連携強化につながっている。内容については、まだ旧カリでの評価を踏襲しているが、薬学教育協議会のWEBシステム検討委員会にてシステムが備えるべき機能についての検討がなされており、それによってシステム業者により本システムも順次更新が行われるものとする。
(a)	中四国調整機構において、広島県内で今年度の実務実習において改訂コアカリ対応実務実習を試行している。
(b)	平成30年度に試行を行う事を計画している。
(b)	学外では中国四国調整機構内にワーキンググループを立ち上げ、機構内で統一を図っている。その中で、新たに具体的な内容が提示された重要な8疾患例を実施施設に提示し、「平成29年度改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習に関する事前調査」を行い、その結果を基に平成31年度実習配属シミュレーションの実施配属シミュレーションの実施（8疾患のカバーを含む）薬局→病院薬局→病院を行うことを検討している。また、アンケート結果を基に平成30年度実習においても一部 薬局→病院（8疾患のカバーを含む）の配属を行い、31年度実習に向けてトライアルを計画している。これらの計画と平行して、WEBシステムの構築に向けて運営会社に機構内の原案を提供し、同一システムを利用する各機構間でのすりあわせを行い、トライアルではそれらを検証する予定である。
(c)	複数の薬局、病院の実習施設でガイドラインに添った評価基準・評価方法のシミュレーションを2017年度2期の実習期間で行えるよう、対象とする実習施設を調整している。
九州・山口地区	
(a)	県薬を中心に実習の評価について試行した。
(b)	具体的な体制・内容については、現在検討中。
(b)	県薬では、現行の実習と同時並行での、内容・評価表法のトライアルが一部実施されている。病薬においても、本年度より一部トライアルを開始することになっている。
(b)	平成30年度の実務実習において、改訂コア・カリキュラムに基づいた仕様となっている富士ゼロックスシステムを試行する。
(c)	webシステムの導入をベースに、実習の内容、評価方法について調整機構内での意見統一を目指したい。現在それに向けて準備に着手しているが、来年度に試行可能となるように努めている。
(d)	平成28年度に、新たな実務実習を想定した少人数での試行を予定していたが、実習時期の調整が出来なかったため実施できなかった。熊本県薬剤師会としては、他大学薬学部を学生を対象に少人数での施行を第2期に実施しており、実習担当者からの情報によると、試行は概ね支障なく実施でき、新しい評価指標（ループリック）に基づく評価は、従来のものよりも使用しやすいと感想を伺っている。一方、九州・山口地区では、新しい実務実習に対応した「認定実務実習指導薬剤師のためのワークショップ」を年3回開催しており、指導薬剤師の確保を図っている。本学教員もワークショップに、参加者およびタスクフォースとして積極的に参加している。
(d)	九州・山口地区でも、熊本の薬局など一部で新コアカリに準じた試行が行われているが、第一薬科大学と共同で行っているわけではない。
(d)	Webシステム導入による施設間連携等について検討を始めた。